

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792200018		
法人名	社会福祉法人 祥永会		
事業所名	グループホーム よみたんふくぎの里		
所在地	沖縄県読谷村字喜名2272番地4		
自己評価作成日	令和6年 9月13日	評価結果市町村受理日	令和6年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	令和6年 9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふくぎの里は、自分や自分の家族が受けてみたいと思うサービス。常にご利用者のご家族の立場に立ったサービスを念頭におき、日々サービスを提供しております。令和6年度は、品質目標を「職員教育訓練を継続し資源を確保します。」とし、品質目標達成・実現に向けて、毎月の教育訓練計画を作成。達成基準を立案し取り組んでおります。実践後においては、目標達成度評価シートを活用し実績、取り組み内容と成果、今後の目標達成に向けた課題と対策を評価しながらサービス向上取り組み、令和6年4月～令和6年8月までに13項目の社内研修実施し資源を確保し事業運営に取り組んでおります。又、ご利用者・ご家族の満足向上を図る為年間行事計画を作成。計画書に沿ってサービスを提供する事ができております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から住宅街に入った場所に位置しており、建物1階は法人の小規模多機能型居宅介護事業所、2階に当該事業所がある。隣接している他法人の保育園に事業所敷地の一部を開放し、園児が敷地で遊んだり散歩道になっている。事業所の利用者が散歩に出かける際には、隣接の保育園の前を通り園児へ声をかけ合い、散歩途中にあるパーラーを休憩所として利用し、飲み物や軽食を楽しんで近隣との交流を深めている。本体法人で導入しているISOによる内部監査等で、運営管理の点検・改善が行われ、サービスの質の向上が図られている。外出やおやつメニュー等は利用者と職員で話し合い選定して実施している。誕生日のケーキづくりやイベントの実施には職員のアイデアを活用し、個々のモチベーションを高める取り組みを行っている。また、ペットの同伴出勤や休憩室、運動器具の整備など、職員が働きやすい環境が整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は日頃職員が目に入る場所、玄関に提示しており、いつでも職員が周知できるようにしています。日々のケアに気になる点があれば、その度に職員へ理念に基づき、実施できているか確認しており「その人を中心とした介護」を意識しながらケア提供に努めています。	理念は、玄関に掲示し、職員・家族・訪問客の目につく場所にある。職員は、理念を念頭に日々の業務を遂行している。法人で取り組んでいるISOの取り組みで、年に2回の内部監査が実施され、その際に職員間での理念の再確認・共有の機会となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のパーラへ出かけたり、隣の保育園児との日常的な交流を図る事ができております。又旧暦のお盆においては、喜名自治会の青年会エイサーをお招きし演舞を披露していただき交流を図ることが出来ております。行事加等を通して地域との交流に努めております。	事業所の隣に保育園があり、事業所のテラスから保育園児との交流を行っている。近隣のパーラは散歩の途中に立ち寄る休憩場所で、飲み物やワッフルなど、利用者が好きなものを購入している。自治会長が運営推進会議や防災訓練、事業所の敬老会に参加し、地域の青年会によるエイサー披露が旧盆の恒例行事となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者との買い物時等や外出支援を通じ、地域の方々と触れあいながら、認知症の方への理解をしていただいております。人材育成の貢献として実習生の受け入れも行っています。令和6年度の実習生受け入れはございませんでしたが、事業所見学(看護学生)として受け入れる事ができております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催する事ができており、事業計画や品質目標、利用者入居状況、行事、事故発生状況、身体拘束廃止について等の報告する事が出来ており、利用者やご家族、委員から評価、要望、助言を頂くことが出来ておりサービス向上に活かす事ができております。	コロナ禍は書面開催だったが、令和5年からは対面で開催している。参加者に自治会長、家族代表、行政、有識者、利用者が確認できた。会議では利用者の状況やサービス提供状況の報告が行われ、職員に対する研修についても実施内容や評価が報告されている。日々の活動状況は写真で提示され、委員からの評価や要望、助言を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者を運営推進会議の委員に任命し参加して頂きながらご意見・要望・助言を頂き情報交換としている事や必要時、役場福祉課窓口へ訪問し連携を図っております。また、例年は、事業所行事への参加や保険者の職員研修として、施設見学と意見交換会を実施しておりますが、令和6年度は実績がなく事業所の現状や課題を報告する事は出来ておりませんが機会を儲け連携に努めてまいります。	村直轄運営の地域包括支援センター職員を、運営推進会議の委員として委託している。職員は会議に毎回参加し、事業所の運営状況について情報を共有している。また、村からの研修等の情報も随時提供されている。事業所行事の案内や、施設見学・意見交換会等を受入れることにより、行政との関係性を深めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中事業所内の施錠はせず、安全に配慮し自由な外出が出来るようにしています。帰宅願望あるご利用者に対しては要望を受け入れ、屋外へ出て気分転換を図る事や、家族面会を依頼する等、状況に応じた対応をし拘束のない生活を支援しております。	身体拘束廃止に関する指針が策定され、身体拘束適正化の委員会を年に3回開催している。指針は玄関先に掲示し、委員会の議事録はファイリングして職員・家族が常時閲覧できるようにしている。玄関の鍵は、施錠せず利用者の自由な外出を可能にしている。職員は、適宜見守りや寄り添いを行い、安全面に配慮している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	沖縄県介護保険広域連合による集団指導への参加や認知症実践者研修、初任者研修への参加等で制度の活用を方を学んでいる事や、虐待についてマニュアルを作成。社内研修を開催している事や会議において議題にあげ取り組んでいます。	虐待防止に関する指針が策定され、虐待防止委員会が設置されている。虐待防止についてのマニュアルを作成し、職員間での勉強会で活用している。6月には、web研修で「虐待・不適切ケアを防ぐ」を受講した。受講後の感想では、観察やコミュニケーションの重要性についての気づきがあり、困った時には職員同士で話し合える環境が整備されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を開催し制度を学ぶ機会し、利用者個々の支援につなげていけるよう職員教育を図っている事や、必要時において活用できるよう努めてまいります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、運営規程、重要事項、契約書を活用し十分な説明。理解・納得していただいた上での利用開始となっています。また、改定時も都度改定部分について十分に説明し、不安や疑問点を訪ねた後に同意を頂けております。ご利用者本人の説明は理解力や精神的負担を考慮し、家族にゆだねております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の希望には可能な限り応え、ご家族が面会にいらした際に、いつでも意見が記入できるよう玄関に意見箱を設置していることや、外部評価、運営推進会議等を掲示板にて開示しております。又、ご家族に積極的に話しかけて得た情報や意見を介護記録システムへ記載し職員間で共有する体制が出来ています。	外出先やおやつメニュー等の選定には、利用者の要望を取り入れている。マグロのお寿司が食べたいという要望に対して、ドライブを兼ねて那覇の魚市場に買い出しに行き、寿司を作り食べるという実践に繋がった。家族の訪問時は、意見を聴く機会として捉え対応している。日々の活動や家族からの情報等、介護記録システムに入力し、職員間での情報共有を図っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と共にミーティングを行い、意見を求める機会を設けており、その場で意見に対する検討を行い意見が日々の支援、運営に反映されるように取り組んでいます。又、月2回の職員会議録を活用し代表者へ報告。職員の意見を反映できる機会としております。	行事の運営や外出先等について、管理者・職員・利用者でのミーティングで決定し実施している。利用者の誕生日には、担当職員の手作りケーキでお祝いをしている。管理者は予算を確保し、職員のアイデアを尊重している。昨年度は、花火大会を行い、ランタンを作成して火を灯し鑑賞した。また、職員の意見を受けて、事業所内に休憩室や運動器具を整備している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事評価を行い、職員が向上心をもち就業できるように働きかけしています。年次有給制度の所得や勤務希望は出来るだけ要望通りに受け止めるように努めており、また、職員休憩室やトレーニング室を完備し就業環境を整備しております。	法人内の衛生委員会の活動の一環として、年に1回職員のメンタルヘルスチェックを実施している。管理者は人事評価面談を行い、目標の達成度を話し合い、賞与などに反映させている。また、資格取得支援制度やペット同伴出勤も導入しており、ペットは利用者のケアにも貢献している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、教育訓練計画を作成し教育担当者を決め、OJTや社内研修実施しております。また、従来介護職員は社外研修に参加、実務者研修参加を導入し、情報を得る機会や資格習得の機会を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会によるzoom勉強会・研修へ参加する事で事業所以外の人と親睦を深め意見や経験に活かして職員へ情報を伝達しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のご要望を傾聴と受容に努め、笑顔で接し意志表現しやすい環境を作る様心掛けています。利用者に対しての不安やニーズは出来るだけ時間をかけ、お話を聞く時間を設けています。また、受け入れ前には、事前自宅訪問を実施しご本人が安心できる関係性づくりに努めております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へ、受付段階から入居に対しての不安やニーズはできるだけ時間をかけ、お話を聞く時間を設け、要望に取り組んでいる事や入居後も気軽に訪問できる雰囲気作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後、直ぐに入居していただくのではなく、現在の自宅にて生活を送れているのであれば、在宅生活が継続できるよう他事業所の紹介とその時必要としているサービスを紹介する等支援しております。 (入居にあたり判定会議を開催し入居の必要性を判断しております。)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に寄り添いながら、野菜の皮むきや食事の仕込み・調理までの行程や洗濯物干しやたたむまでの家事等を無理のない程度に協力して頂きながら、利用者の力を引きだす努力や、出来ている事を継続できるように見守る環境作りを尊重していく関係作りをしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々暮らしの中で本人とご家族との絆を大切にしながら支援。日々の面会の際や誕生会、特別な行事には参加していただきご本人とご家族の絆を大切にできるよう支援しております。利用者の日々の様子や職員の思いを伝える事で信頼関係が気づけていると実感しております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が築いてこられた馴染みの関係を大切にし外出や面会を受け入れ、心地良い環境を作っております。また、利用者から馴染みの人に会いたいと要望があればお宅や事業所等を訪問し職員が調整役となり、途切れの無い環境を支援に努めております。	家族や知人など、関係の継続を目指し、面会・外出等の要望に可能な限り応えている。コロナ禍で中断していた敬老会等の行事に招待したり、ドライブの際には、自宅やゆかりのある場所を選定して、関係継続の支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの合性を把握し、利用者同士会話が出来る環境作りに努めています。折り合いが合わない利用者に対し環境に配慮して席の工夫をし見守りを行っております。日々の余暇活動や誕生会等の行事を通じながら、職員が仲介に入りコミュニケーションを図っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、事業所への面会やご家族へ気軽に訪問していただけるよう、環境を整えており、契約終了後もご家族が事業所を訪問されるケースもございます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意見を把握するように努めており、意志疎通が困難な方に対して日々の会話や生活状況の中から思いを引き出せるよう支援しています。意向、希望については職員1人の意見に偏らないよう会議の中で議題にしたり、ご家族と相談しながら検討しております。	利用者一人ひとりの思いは、日々の支援や家族からの情報等を通して把握するように努めている。誕生日には、それぞれの意向に沿ったケーキを職員が手作りし祝っている。外出先やおやつメニュー等、個々の要望を受け止めて選定し、実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から得た情報や、可能な限り自宅へ伺い住環境を確認、記載し職員間で共有できており、少しでも馴染みの暮らしが提供出来るよう支援しています。日々の生活の中で、本人が話す内容に初めて聞いた事はご家族へ確認をし、把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動や言動を記録に残し、職員全員が把握できるよう情報を共有できている事や、心身の状態を把握し、出来ない決めつけず安易に介助するのではなく、出来る事を見つけ支援しより良いケアが提供できるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らす為に、職員やご家族とケアのあり方について連携を図り、3ヶ月ごとのモニタリングやケアカンファレンスを行い、発生した課題はご家族と職員間で話し合い、敏速に対応出来るようプランを作成、プランに沿ってサービス提供を実践できております。	担当者会議には、担当介護福祉士・ケアマネジャー・家族・本人が参加し、介護計画の確認を行っている。担当制を導入しており、職員1名で3名の利用者を担当している。担当者を中心に3か月ごとにモニタリングを実施している。定期的なケアカンファレンスを実施しており、抽出された課題に対応したプランの見直しを行い、実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を記録とし、毎月実践結果を評価。課題を抽出、検討することができています。評価結果や改善項目については、会議や申し送り等で職員間にて共有しながら介護計画の見直しにつなぐ事ができております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活・暮らしの視点から本人の希望に沿える事を重視して実践に取り組み、ご本人やご家族の希望には状況に応じた柔軟な対応や必要時医療的ケアへの支援を受けながら対応する事が出来ています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、本人の意思を尊重し近隣のスーパーや公共施設等、地域資源を必要に応じて利用できるように支援しております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族に応じ、それぞれのかかりつけ医で受診しております。医療に関する困難な事例等は直接主治医の病院に管理者が出向き相談しています。また定期訪問診療をしていただき、利用者の変化等を主治医へ相談しながらホームとの良好な関係が構築できている事から、本人やご家族の安心に繋ぐ事ができております。	入居前からのかかりつけ医を継続し、家族の希望で事業所の協力医の訪問診療に変更した方が多い。健康管理のため、定期的な採血検査や体調変化時の往診、必要な専門科への受診支援に努めている。看護師資格を持つ管理者が診察時に立ち会い、結果を診療録に入力し、職員は口頭や申し送りで確認する。また、家族にはその都度電話や面会時に報告している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置してしております。24時間の連絡体制も整っております。適切な医療、介護が受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院側とケアの方法をはじめ、ご本人様の情報を共有しながら、主治医との連携を図り、早期退院に向け取り組んでいます。従来は、入院によるダメージを極力防ぐため管理者や職員が面会を心掛けに努めております。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の説明や契約時において重要事項を活用しご説明、同意をいただいております。また、終末期の対応については指針を作成し、ご家族へ同意を頂いております。今年度も看取りの実践に取り組んでおります。	重度化・看取り指針を整備し、契約時や状態変化に応じて家族に説明し、意思確認を行っている。終末期の利用者には、家族の面会や付き添いの時間を増やし、最後まで寄り添えるように配慮している。職員は、終末期の利用者の体調変化について管理者からの説明や研修を通じて理解を深めており、夜間でも管理者が迅速に対応する等、職員の不安軽減に努めている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、電話近くに設けています。緊急時、看護師へ24時間連絡が取れる体制をとっています。また、勉強会を開催し、職員育成を図り緊急時には不安なく対応出来るよう努めております。	緊急時対応マニュアルが整備され、研修も実施されている。事故発生時には、即日検討会議を開催し、報告書を作成している。事故の分析や対策の徹底を行い、1ヶ月後には対策の妥当性を評価して年間の事故報告の集計と分析も行っている。毎月のケア会議では、利用者の状態やリスクを細かく検討し、事故の未然防止に努めている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を防災訓練を計画・実践と研修を活かし職員が非常時に対応できるよう努めております。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施しております。	併設の他事業所と合同で昼夜を想定した避難訓練を年2回実施しており、自治会長の参加と協力も得られている。定期的に消防設備の点検が行われ、約3日分の備蓄とカセットコンロ、自家発電機等が準備されている。自然災害や感染症に対する指針とBCPが整備されており、法人合同の感染対策委員会が開催され、研修も実施されている。	

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、認知症という病気を理解しながらその人の人格や誇りを大切に言葉使いを配慮しております。また、日頃の生活を過す中でプライバシーにも細心の注意を払うように心掛けております。	利用契約書には「利用者の権利」の条文中に「①独自の生活歴を有する個人として尊重され、プライバシーを保ち、尊厳を維持すること」から始まり、人格の尊重とプライバシーの確保に関する10項目が明記されている。職員は接遇マナー研修や入職時の業務指導を通じて、必要な知識やスキルを身につけ、具体的には、トイレや浴室のドアを閉めること、言葉遣い等に気をつけてい	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活からご本人の思いをお伺いするようにし、思いを表現出来ない方には、表情やサインを見逃さないように気を付け、思いや希望が引き出せるように働きかけ自己決定できるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイルを大切にし、その方がどう暮らしたいのか、何を必要としているのかを理解し、職員本意ではなく利用者本意を心掛け支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室や洗面台に鏡とブラシを置き、居室にて身だしなみが整えられるよう支援している事や、日々の着替えや入浴の際に利用者と共に洋服を選ぶ等、本人の好みを大切にしております。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と一緒にテーブルを囲み食事をいただいております。季節の行事に応じた食事を提供やご利用者の希望する食事をメニューに取り組み提供する等の工夫をしております。また、時に利用者の要望するお食事がいただこうよう外食やリクエストメニューを提供できております。	法人の管理栄養士が作成した献立に沿って、事業所で全食事を調理している。利用者は食材の下ごしらえなどに参加し、月1回は利用者のリクエストで流し素麺やバーベキュー、ハンバーガーなどのメニューを取り入れている。また、日常のおやつとしてパンやクッキーを手作りしている。食事への関心や楽しみを支援し、経口から食事を摂ることの重要性を大切にしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士により献立作成の基で、バ ランスの良い食事を提供しております。毎食の食 事量、水分摂取量や定期体重測定を記録し栄養 状態の管理を行っています。また、一人ひとりに 合わせて食事形態や器等の工夫をしながら支援 しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、実施方法や場所など、個々の身 体状況に合わせ毎食後実施しています。口腔 ケアに認識が低い入居者は時間をずらしたり無 理はせず声掛けの工夫をしております。また、夜 間に1回/日用具を洗う、消毒等し定期的な洗 浄・消毒と交換を行い、清潔保持に努めておりま す。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ た支援を行っている	ご利用者は、オムツ使用者はなく、パットに布 パンツ(テーナパンツ)を使用する事ができており ます。新規入居や状態の変化に合わせ一人ひと りの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を 取り組んでおります。排泄で失敗してもご本人の 自尊心を損なわないような声掛けや、排泄スタ イルを崩さず、気持ちよく排泄できるように工夫 しております。	入居時や退院後の2週間程度、利用者一人ひと りの排泄状況を確認し把握した後、個別計画に 組み込んで自立に向けた排泄支援に取り組んで いる。状態に応じてポータブルトイレやおむつ交 換を行うが、事業所では紙パンツではなく吸水性 のある布パンツの使用を推奨している。その結 果、自尊心が保たれ、ほとんどの利用者が終日 トイレで排泄できるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食 物の工夫や運動への働きかけ等、個々に 応じた予防に取り組んでいる	便の性状観察を行い、職員間で情報を共有。 便秘や下痢の原因を探り、食事の工夫や水分の 飲用量の調整を行っています。また適度な歩行 運動を取り入れ予防に取り組んでおります。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつ た支援をしている	入浴のお断りが強い方へはチームアプローチに て支援しております。入居者の希望に応じての 入浴支援が可能です。清拭の習慣がある方へ の支援や浴室環境を整え、声掛けの工夫しなが ら対応しています。気持ち良さが残るように入浴 後のフォロー(爪切り、耳かき、飲み物)を提供し ております。	週2回の個浴を基本にしているが、利用者の希 望や状況に応じて臨機応変に対応している。浴 室入口には利用者が理解しやすいように「女湯」 「男湯」の表示をしている。脱衣所にはエアコン が設置されており、脱衣所内でドライヤーなど整 容も行っている。また、保湿剤や個々の塗布薬、 クリームを使用して、皮膚トラブルの予防に努め ている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安で眠れない方へ付き添い等の工夫や自然に入眠してもらう等、状況に応じた対応をしています。入眠前の居室の室温調整にも配慮し、温度・湿度を調整。利用者が快適に過ごせるよう整えております。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者のお薬説明書をケース記録に整理しつつでも職員が取り出し、確認出来るようにしています。また、追加、新しい薬の処方がある際は、管理者(看護師)にて薬情を基に申し送りを実施。服薬変更、服薬目的を周知しております。	服薬支援マニュアルが整備されており、服薬の手順も明記されている。入職時に服薬についての指導を受けることで、誤薬事故が防げている。看護師資格を持つ管理者が調剤薬局からの受け取りやセッティングを行い、利用者の状態と服薬内容について主治医と相談しながら、適切な服薬支援に努めている。職員は利用者の服薬状況を申し送り一覧で確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の個別援助計画として、「できる事」「強み」を活かし、余暇活動の援助を実践していただいております。生活の一部として定着しており、役割をもっていただき、楽しみながら生活していただいております。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援では、利用者を外食や市場見学等、年間行事(梅花見、遠足、社会見学等)、近隣散歩、公園へお弁当を持参し食事に出かける等、楽しみ、気分転換につなぐことができております。	日常的に少人数で事業所の隣にある保育園の敷地を通りながら周辺を散歩し、近くのパーラーで飲み物を買って休憩をしている。また、村内をドライブして利用者の出身地を訪れたり、行事の計画を立てて、利用者全員で手作り弁当を持って公園に出かけたり、遠方の魚市場まで買い物に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの利用者に、金銭能力の違いがある為、個々のご家族と相談した上で管理方法を選択しています。自身で管理している方や、必要な際にご家族に持参して頂く等、ご家族の理解を頂いた上で支援しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信の使用制限はなく、ご利用者からの要望時は対応できていることや、ご家族から事業所へご連絡があった際や事業所職員からご家族へ連絡し電話やIPパットを活用し支援する事ができております。難聴のある方々においては、職員が取り次ぎ、筆談等工夫しながら支援しております。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と中庭で育てた観葉植物をリビングやローカ、談話室、玄関等に飾り癒しの空間づくりや季節に合わせた水彩画を飾り居心地よく過ごせる家庭的な雰囲気を提供しております。	1階の園庭は緑が多く、2階のベランダも広いいため、普段の日光浴やイベントに活用している。事業所内は木目調の床に観葉植物が多く、建物の中心には中庭があつて採光も良い。空気清浄機を設置し、定期的に換気を行っている。リビングの食卓や畳間、談話室のソファなど、利用者は居室以外でもそれぞれ好きな場所でくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士で談話できる空間としてリビングや談話室を設置する事ができております。又、お一人で過ごしたいご利用者におきましても、自室にTV等を設置する事ができており居場所の工夫を図る事が出来ております。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、自宅で使い慣れた家具等がありましたら使用できるよう私物の持ち込み等をご家族へご案内をしております。主な持ち込み物としては、ご家族の写真、布団、手工芸等の持ち込みとなっています。入居後は、職員にて、本人が安心して過して頂けるよう環境作りに努めております。	フローリングのみの部屋、フローリングと畳の部屋、畳のみの部屋の3タイプがあり、各居室には窓があり、採光も良い。ベッド、エアコン、収納タンス、ナースコール、加湿器の設備があり、利用者は家族写真や使い慣れた寝具、ちぎり絵の作品などを持ち込んでいる。家具の配置は利用者一人ひとりに合わせて行い、紙おむつ等も目に触れない場所に収納されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の気づきを共有し、一人ひとりの身体状態に応じて、自立を妨げないようベッドや家具を配置して環境整備に努めております。		